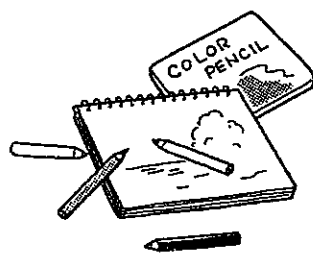
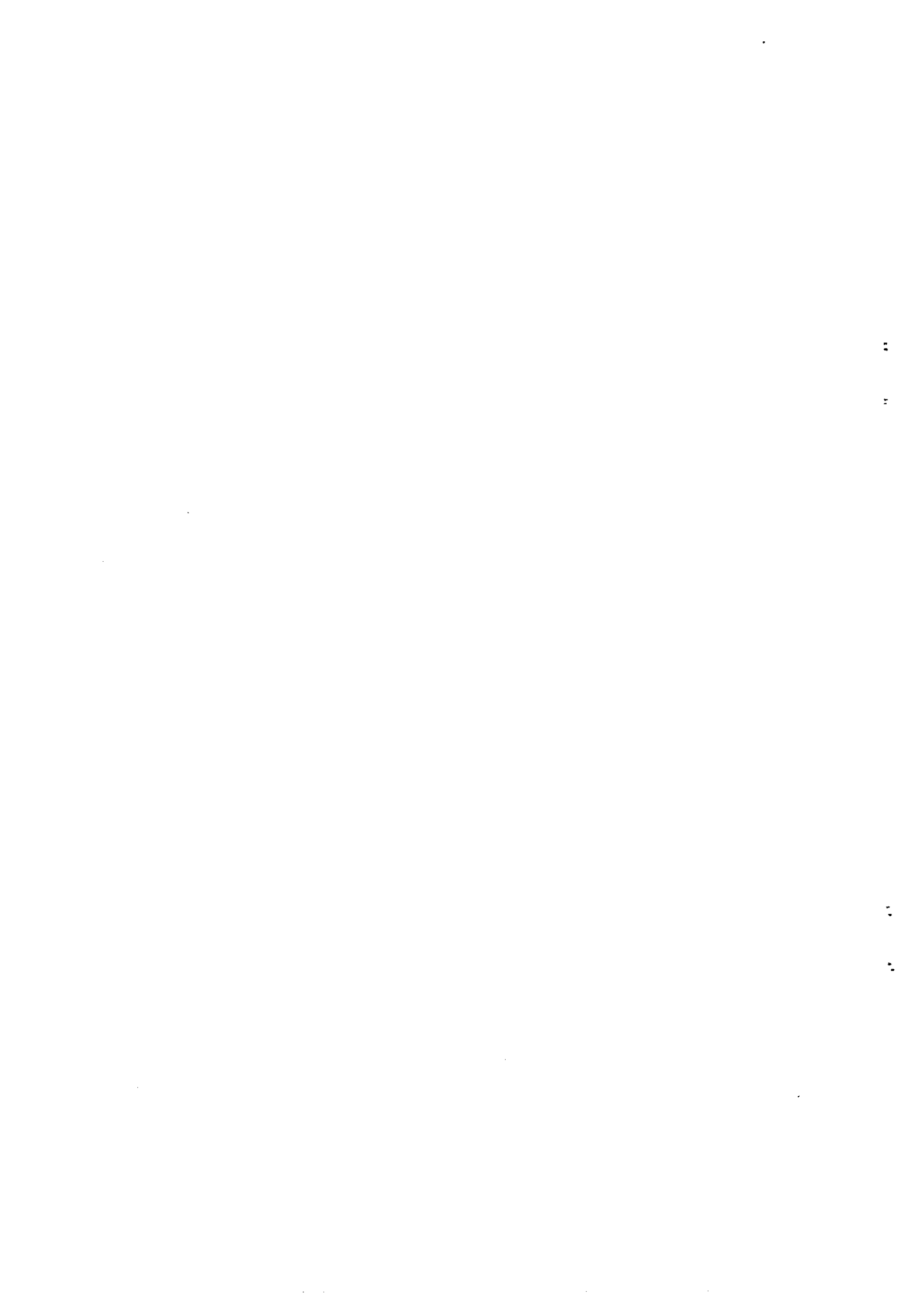


教育部会 资料





お子さん・お孫さんのことについてお尋ねします。

(以下の設問について該当する箇所すべてにマルをつけてください。)

回答者 () 歳代 ・男性 ・女性

1. 今までにお子さんやお孫さんのことで誰かに相談したことがありますか。

- ・ある ・ない

★あるにマルをつけられた方だけ、次の(a、b、c)の設問にお答えください。

a、何について相談されましたか。

- ・病気 ・教育
・しつけ ・その他 ()

b、誰に相談しましたか。

- | | |
|---------------------|----------------|
| ① 市役所の相談窓口 | ⑩ 同じ悩みのない友達・知人 |
| ② 警察の相談窓口 | ⑪ 近所の人 |
| ③ 保健所の相談窓口 | ⑫ 学校の担任の先生 |
| ④ 教育委員会の相談窓口 | ⑬ 学校の校長先生 |
| ⑤ 子どもセンター(児童館)の相談窓口 | ⑭ 父母・義父母等家族や親戚 |
| ⑥ 小児科もしくは内科の医師 | ⑮ 同じ悩みの親の会 |
| ⑦ 心療内科の医師 | ⑯ ラジオ・テレビの教育相談 |
| ⑧ カウンセラー | ⑰ 著名人 |
| ⑨ 同じ悩みを持つ友達・知人 | ⑱ その他 () |

c、相談して満足する回答が得られましたか。

- ・得られた ・得られない ・わからない

その時の感想をご自由にお書きください。

★ないにマルをつけられた方だけ、次の(d)の設問にお答えください。

d、相談されたことがないわけは

- ・子ども・孫に心配の種がないので相談する必要がない
・相談したいがどこへ行けばいいのかわからない
・人に悩みが知れてしまうのがいや
・その他 ()

2. 今後もしお子さん・お孫さんに以下のようなことが起こった場合、相談するとしたらどこに行きたいですか。()内に下の□の中の番号でお答えください。

お子さん・お孫さんが

- ア、学校や園でいじめられたとき () コ、学校や園でいじめたとき ()
 イ、家庭内暴力をしたとき () サ、他人に虐待を受けたとき ()
 ウ、どうしても成績が上がらないとき ()
 エ、登校を渋ったとき、登校しないとき ()
 オ、家族の誰かに虐待を受けたとき ()
 カ、家に引きこもってしまったとき ()
 キ、摂食障害(拒食、過食)になったとき ()
 ク、ストレスのせいだと思われる身体症状(円形脱毛症、下痢、チック症、不眠など)が出たとき ()
 ケ、親に隠れて喫煙、万引きなどを行っている気配があるとき ()

1 市役所の相談窓口	10 同じ悩みのない友達・知人
2 警察の相談窓口	11 近所の人
3 保健所の相談窓口	12 学校の担任の先生
4 教育委員会の相談窓口	13 学校の校長先生
5 子どもセンター(児童館)の相談窓口	14 父母・義父母等家族や親戚
6 小児科もしくは内科の医師	15 同じ悩みの親の会
7 心療内科の医師	16 ラジオ・テレビの教育相談
8 カウンセラー	17 著名人
9 同じ悩みを持つ友達・知人	18 相談には行かない
	19 その他

3. 同じ悩みを持っている人や、それを乗り越えてきた人に相談できるシステムができたら、あなたはそれを利用しようと思いますか。

- ・利用する ・利用しない ・わからない

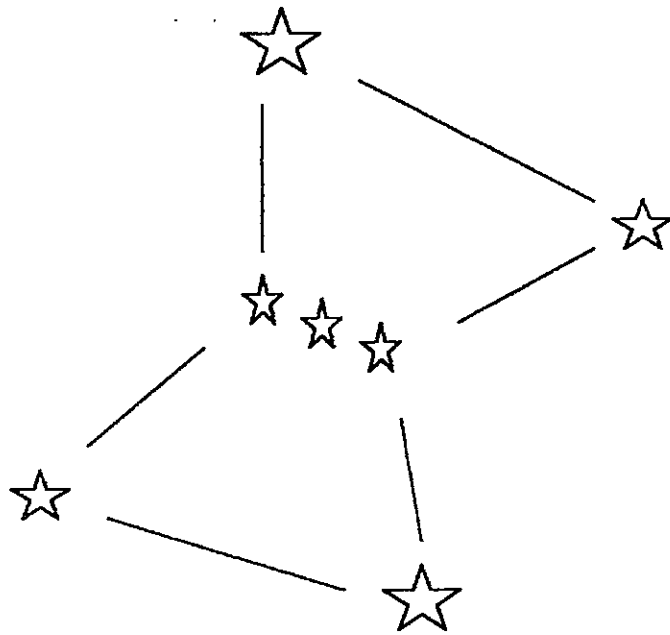
4. 安心して悩みの相談ができる場所の条件は何だと思いますか。

自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

教育部会

アンケート報告



篠山市女性委員会

目 次

○ アンケートからわかる現状	1～5
① 回答率・回答者	1
② 相談したことがありますか	1
③ 何について相談しましたか	2
④ 誰に相談しましたか	2
⑤ 満足する回答が得られましたか	3
⑥ その時の感想	3
⑦ 今までに相談したことのない人	4
⑧ 「その他」に書かれたコメント	4
⑨ 相談するとしたらどこに行きたいですか	4
⑩ 相談システムを利用しますか	5
⑪ 相談場所としての条件	5
⑫ まとめとして	5
○ アンケートの現状から推察できる問題点	6
○ 望ましい方向及び提言	7～8
○ アンケートの集計、まとめを終えて	8
資料 A (今までに相談に行った場所)	9
資料 B (相談したときの感想)	10
資料 C (相談するとしたら…ふれあい)	11～12
資料 D (相談するとしたら…小学校)	13～14
資料 E (相談するとしたら…中学校)	15～16
資料 F (相談場所の条件)	17

教育部会アンケート報告

21世紀の開幕を前にして、教育が抱えている現状には厳しいものがあります。

少年犯罪の凶悪化、いじめ、自殺、不登校の増大、学級崩壊の進行など、今の教育の現場は大きな危機を迎えているといえます。

すべての子どもたちの人権が守られ、のびのび育ち、自分らしく学び、楽しく働き、いきいきと生きていくことができる……そんな地域社会の実現のために、行政としてどのような支援ができるのかを、アンケートを一つの手がかりにして考えてみました。

このアンケートは、女性委員会の教育部会が主になって、幼児から中学生までの子どもの保護者を対象に行い、子ども自身の声は含まれていません。この報告書はその結果から考えられることをまとめたものであり、今後の研究、最終報告に向けた調査資料とさせていただきます。

○ アンケートからわかる現状

① 回答率・回答者

回答率	配布数 1244人	回答数 992人	回答率 79.7%
-----	-----------	----------	-----------

回答者

	男性	女性	不明	計
ふれあいセンター(人)	2	108	3	113
小学校(人)	26	368	16	410
中学校(人)	29	427	13	469
合計(人)	57	903	32	992
割合(%)	5.7	91.1	3.2	100

992人に対する割合

- 母親からの回答が圧倒的に多い。
- 子育てが母親の責任になっている。

② 相談したことがありますか

	ある	ない	計
ふれあいセンター(人)	102	11	113
小学校(人)	277	133	410
中学校(人)	273	196	469
合計(人)	652	340	992
割合(%)	65.7	34.3	100

992人に対する割合

③ 何について相談しましたか

	病気	教育	しつけ	その他	計
ふれあいセンター (人)	64	23	72	14	173
小学校 (人)	131	141	150	44	466
中学校 (人)	112	149	119	43	423
合計 (人)	307	313	341	101	1062
割合 (%)	28.9	29.4	32.2	9.5	100

1062件に対する割合

②、③について

- 約3分の2の人が相談した経験があり、内容については、病気、教育、しつけがほぼ同じ割合になっている。
- 重大なことからささいなことまで、子供のことを常に気にかけている母親の姿がうかがえる。

④ 誰に相談しましたか

<資料④を見てください> ..

- 内容にもよると思うが、友達に相談する人が多い。子育てには地域の連帯が非常に重要である。
- 学校の担任の先生、小児科もしくは内科の医師の項も多い。
- 公共機関の窓口を利用する人は少ない。
- 心療内科の医師、カウンセラー、親の会の項目も少ないが、これは親に情報が行き渡っていないのも原因かと思われる。
- カウンセラーや専門の相談員に相談できる場所も含めて、篠山市には以下のような機関などがあるが、利用者が少なく十分に機能しているとはいえない。

- ・ 保健所
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 教育委員会
 - スクールアドバイザー派遣
 - 心の教育相談員 (管内中学校)
 - スクールカウンセラー
 - 教育相談
 - 教育相談フリーダイヤル

⑤ 満足する回答が得られましたか

	得られた	得られない	わからない	計
ふれあいセンター (人)	76	8	22	106
小学校 (人)	151	33	82	266
中学校 (人)	133	36	76	245
合計 (人)	360	77	180	617
割合 (%)	58.3	12.5	29.2	100

617件に対する割合

⑥ その時の感想

この設問に対するコメント数

	コメント数	割合 (%)	備考
ふれあいセンター (人)	56	55.0	102人に対する割合
小学校 (人)	154	55.6	277人に対する割合
中学校 (人)	149	54.6	273人に対する割合
合計 (人)	359	55.1	652人に対する割合

<資料⑥を見てください>

- 満足したと答えた人の感想では、“誰かに聞いてもらうだけで心が落ち着いた” “同じ立場の人と話すことにより、自分ひとりだけではないとわかり不安がやわらいだ” という内容が多い。
- “問題が解決したから満足だ” という答えは少ない。
- 満足しなかった、わからないと答えた人の感想では、“根本的な解決にはならなかった” “相談した内容が広まってしまった” “相手の言葉がショックだった、傷ついた” という内容が多い。
- 学校の先生、病院の医師、カウンセラーに対する意見は、賛否両論あり、“とてもよくしてもらった”と感じている人と、“とても傷ついた”と感じている人がいる。
- 無理解な学校や教育者や相談員の対応により、深く傷つき、不信感を深めた人の心痛むコメントも少なからずある。

⑦ 今までに相談したことの無い人

	心配なし	どこに行けばよいか	人に知られたくない	その他	計
ふれあいセンター (人)	4	2	1	4	11
小学校 (人)	73	13	9	29	124
中学校 (人)	122	10	12	35	179
合計 (人)	199	25	22	68	314
割合 (%)	63.3	8.0	7.0	21.7	100

314人に対する割合

- “どこに行けばいいのかわからない”と“人に知られるのがいや”にマルをつけた人の割合が合計15%と高くなっている。なぜそこにマルをつけたのか、どんな情報、どんな経験があったのかを考えてみる必要がある。

⑧ 「その他」に書かれたコメント

	ふれあい	小学校	中学校	計
家族と相談している	2	14	10	26
相談するほどではない	0	8	13	21
子ども自身と話し合う	1	0	4	5
自然と解決した	0	2	2	4
自分で考えたい	0	0	2	2
知人にぐちる	0	2	0	2

計60人

- これから相談する・気にしない・時間がない・気がついていないだけかも・一人で抱え込んでしまう・噂話になるから・今考え中・帰ってくる答えがわかる 各一人ずつ
- 問題や心配事がないわけではないが、さほど深刻ではないと思っている人、本人や家族と相談している人が大多数である。
- 噂話になるから、返ってくる答えがわかるからと相談することに否定的になっている人もいる。

⑨ 相談するとしたらどこに行きたいですか

<グラフ⑩⑪及び表⑫⑬を見てください>

- 相談したい人のトップは担任の先生となっている。担任の先生は、一日のほとんどを学校で過ごしている子どもたちとのかかわりで、重要な位置に存在していることがわかる。
- 学校内のことは担任の先生、身体のは医師、深刻なことは警察など、目的別に相談場所を区別している。
- 相談したい場所が一つの場所に集中しなかった項目もある。
- 公共機関の窓口への相談は非常に少ない。